W校中高等部だより
球技大会特集

令和五年(二〇二三)五月二十日
ニューヨーク補習授業校W校

W校中高等部の球技大会が五月二十日に盛大に行われました。あいにくの雨模様でしたが、各種球技に参加した中高等部の生徒たちは、さわやかな汗を流し、楽しく親睦と交流を深めることができました。

生徒たちは、クラスごとに色を決めたTシャツに、各クラスで考えた独特のデコレーションを施し、大会気分を盛り上げていました。

球技大会は、中等部二年の関 壮大君、シャーリー ヒルトン君の元気の良い選手宣誓を合図に、男女混合縦割り八チームに別れ、バスケットボール・バレーボール・ドッジボールの三競技を行いました。本年度実施予定のキックベースとサッカーは雨天のため中止となりました。また、最後には紅白に分かれての全員参加の大ドッジボール大会も行い、生徒たちは、自分の得意な種目だけでなく、みんなで一つになって、活動を楽しんでいる姿が印象的でした。

二週間前からチームごとに昼食をとったり、チームワークを高める活動(チーム名確認ゲーム、名前覚えゲーム、チーム練習など)をしたりしてきたことで、グループ同士の顔や名前を覚え、高等部のリーダーを中心にまとまったチームができました。生徒たちが汗をかきながら得たものは、学年やクラスを超えた団結・協力・相互理解、そして、諦めない心。生徒たちにとって、この球技大会は補習校ならではの思い出作りの場となりました。

競技に参加した生徒一人ひとりの活躍する姿、下級生を思いやり、チームを上手く牽引する高等部のリーダーの頼もしい姿、そして何より、全員の輝く笑顔、普段の授業日には見られない新しい姿をたくさん見ることができました。

試合後には、保護者会から冷たいものが差し入れされ、ボランティアの方々含め、参加者全員が笑顔で感想を語り合い、無事終了しました。

総合成績

一位： Aチーム

二位： Cチーム

三位： Bチーム

競技ボランティアの皆さん

卒業生 戸塚 ジョナサンさん 荒井 聖山さん
河野 真理咲さん 小林 琢磨さん
静 美海さん 寺門 澪さん

保護者 十五名の保護者の方々

競技ボランティアを卒業生にお願いしました。卒業生たちは、この球技大会の準備のために前週の顔合わせから来校し、球技大会当日は、ジムのバレーコート、バスケットコート、ドッジボールコートのラインテープ貼り、ネット設営などの準備に献身的に取り組みました。また、大会運営のため、準備から進行、後片付けまで、この大会を支えていただいた保護者会ボランティアの皆様にも感謝申し上げます。





球技大会の学び

中等部一年一組　蒲地　あかり

初めての球技大会、色々な種目があり楽しかったです。チームメイトのほとんどを知らず、球技大会前には一度しか顔合わせをしていない状態でした。その中でもチームワークが成り立つことができたのは、すごいなと思いました。競争心もありながら、スポーツマンシップを忘れない事が大事だということを学びました。

今年は紅組が勝ち、白組が負けてしまいました。私は白組で負けてしまいましたが、勝ち負け関係なく楽しめたと思います。誰かのせいで負けたわけでもない。誰か一人だけのおかげで勝てたわけじゃない。チームメイトと協力しつつ、チームワークが大切だ、と教えてくれる大事な行事だなと思います。

来年は、今年学んだことを踏まえて、楽しみたいです。負けてしまっても楽しかったと思える球技大会、チームワークが成り立つ球技大会、競争心とスポーツマンシップ、どちらも大切な球技大会は、楽しみだし、色々なことを学べる良い行事だなと改めて感じました。





ドキドキした球技大会

中等部一年一組　酒井　祐豪

心待ちにしていた初めての球技大会はとても楽しかったです。補習校に来る前に窓から外を見ると、雨が降っていたので、もう球技大会はできないかなと、悲しくなりました。ぼくはサッカーをやっているので、サッカーができなくなるのが嫌だったのです。その他のスポーツがどのぐらい楽しいかは分からなかったものの、球技大会のことを少し楽しみに登校しました。

四時間目の数学の時間には、楽しみにする気持ちが溢れてきました。最後の五分ぐらいはずっと時計を眺めながら、一秒一秒が一分のように感じました。ついに数学の授業が終わったときには、興奮でいっぱいでした。

昼食が終わりいよいよ球技大会が始まったときには、なぜかドキドキしてきました。最初の競技はドッジボールでした。ドッジボールは簡単に勝てて、とても嬉しかったです。僕より年上の人たちの投げる球のスピードが凄く速かったのでびっくりしました。

次の競技はバレーボールでした。バレーボールはあまりやったことがなかったので、負けてしまうのではないかと恐かったです。試合が始まって何分か後に、僕より何年か年上の先輩がスパイクを決めました。すごくかっこよかったです。この先輩はバレーボールがすごく上手で何点も取って、僕たちのチームが勝ちました。

最後の競技はバスケットボールでした。四点差で負けてしまいとても悔しかったです。この試合に勝てたら優勝できるチャンスがあったので、悔しい気持ちでいっぱいでした。

最後の競技は負けてしまったけれど、最初の二つの競技に勝てて良かったです。来年は今年よりももっと頑張って、一位になりたいと思います。来年の球技大会がすごく楽しみです。



仲間と協力した球技大会

中等部一年一組　豊田　祐輝

今年の球技大会はとても楽しかったです。なぜなら仲間と協力して楽しむことができたからです。例えば、ドッチボールでは細かくパスを出したり、バレーボールでは声を掛け合ったりしました。僕は特にバレーボールで仲間と協力したことを実感できました。なぜならバレーボールではチームワークが大切だったからです。また、チームワークを活かしたおかげで、勝利することができました。

しかし、バスケットボールでは、残念ながら負けてしまいました。相手のチームに背の高い高校生が二人いたので、全然シュートやパスができませんでした。僕も背が高くなりたいと思いました！

今年は雨だったので、サッカーをすることができずに僕たちはほかのチームの応援をしました。

正直、始める前は応援をすることをつまらないと感じていました。ですが、実際はほかのチームを応援するのは楽しかったです。

僕はこの前の授業中に、「球技大会では勝つことに必死なので考えることはできません」と発言しましたが、実際、後から考えると、意外といろいろ考えることができました。結果勝ててうれしかったです。また来年も頑張りたいです。

楽しい一日

中等部二年一組　佐久間　彩華

私は補習校の体育館に座っている時、胸がドキドキするように感じて来ました。その日は私の2回目の球技大会の日でした。今年は去年と違ってグループの人と一緒に協力しあって一生懸命に頑張りながら勝つことを目標にしていました。

雨のため、サッカーが中止で一つの競技が無くなってしまいました。そのために球技大会が開始されたすぐ後は私たちのグループは他のチームが試合をしているのを応援して待ちました。私はとても緊張していましたが他チームが試合をしているのを見て心の準備が出来ました。

私のグループの最初の種目はバスケでした。私はバスケが苦手なので不安でしたが、パスもされグループと一緒にプレイできたので、一瞬で試合が終わったかのように感じました。

次はドッジボールの試合をしました。私は割と早くアウトになったので残念でしたがアウトになってからは安心できたので少しほっとしました。

その後、私たちは私が一番楽しみにしていたバレーボールの試合をしました。みんなが順番にサーブすることができ、ボールを触る機会がたくさんあって良かったです。

最後には中高等部が楽しみにしていた全員ドッジボールでした。私は思ったよりアウトにならなかったので、とてもラッキーに感じました。私がアウトになってからは、みんながボールを避けるように走り回るのを見てとても面白かったです。

閉会式の時になってトップ3の順位が発表され、私のグループは三位になりました。私は一つ一つの試合の点数を見ていなかったのでとても驚きました。私はスターバックスのギフトカードと参加賞のペンケースをいただきました。私はアイスをクラスのみんなと食べている時に満足感を感じました。来年の球技大会も楽しみにしています。





最高のＴシャツ

中等部二年一組　安立　宙陽

球技大会は補習校で楽しみな行事の一つで、それはクラスＴシャツを、皆でアイディアを出しながら作るところから始まります。今年の中二のＴシャツは、黄色でした。黄色と聞いた時、黒や青が好きな僕は、「一番微妙で中途半端な色だな。」とがっかりしました。それでも、クラス全員で何を書くか、どのようなデザインにするのかを考えるのはいつも楽しいです。

話し合いの結果、Ｔシャツの後ろ中央には「七転八起」を黒字で、その横に名字を赤で書くことに決まりました。打たれ強い僕たちにぴったりな言葉です。Ｔシャツの前には、だるまや雷の絵を描きました。出来上がった皆のＴシャツは最高でした。黄色なので字や絵が目立って、残念に思っていた黄色でしたが大正解でした。僕たち中二の黄色いＴシャツが、一番格好良いと思いました。これは捨てずに、記念にとっておくしかありません。

実は僕は球技大会の三日前からかぜで現地校も休んでいたのですが、球技大会に出たくて全力でかぜをなおし、なんとか参加することができました。当日は大雨でジム種目だけになりましたが、クラス全員で最高のＴシャツを着て楽しめました。バスケットボールで他のチームが僕たちを応援してくれたことに感動し、ドッジボールの大勝利に大喜びしました。そして最後の全員大ドッジボールはとても盛り上がりました。



今年も新しい仲間に出会い、ごほうびのアイスポップを友達と食べながら、写真もたくさん撮りました。また一つ、補習校のよい思い出が増え、楽しくて僕のかぜも吹っ飛びました。

今年の球技大会

中等部三年一組　粟飯原ーワイス　寿利

四月はあっという間に過ぎて、先週はもう球技大会の日でした。雨が降ったりチームメンバーを変えなくてはならなかったり、予定していなかったことがあったりしましたが、大成功だったと思います。

先々週、顔合わせの日、私のグループＨは結構静かでした。多分初対面だったからか、皆（私も含めて）緊張していたり恥ずかしかったりしていたのだと思います。「本番もこんな感じなのかな」と思いながら無言でバレーボールのパスの練習をしていました。

大会当日もお弁当はチームと一緒に静かに食べました。しかし、行事が始まるとだんだん話せるようになってきました。私達は第一個目のスポーツがサッカー…ではなくて応援／見学でした。「これじゃあ、後で休憩がないな」と考えていましたが、今思うとその時間が中1の生徒二人との会話のきっかけになったのかもしれません。他のグループや友達を見ることができたのも、今まではなかったことだったので良かったです。

見学の後はドッジボールで、その後はバレーボールをしました。私はバレーが苦手なのですが、サーブが何回か上手くできて嬉しかったです。勝ちはしませんでしたが、声をかけ合いながらしたりして、楽しかったです。

次はバスケットボールでした。バスケは苦手というか、普通にあまり好きではないスポーツです。でも、今回はもっと自分からボールを追ったりしてみようと思い、（入りませんでしたが）先輩が「やってみる？」と言うようにくれたボールをシュートするのにも挑戦してみました。一応敵だったチームに友達がいて、二人であせったりしながら遊ぶのも楽しかったです。私は前半に出たのですが、一緒だったチームリーダーの先輩に「頑張ったねー」とフィストバンプをもらった時も嬉しかったです。後半ではどんどん点が入り、とても上手なメンバー達に感動していました。そして、ついにＨが勝ちました！

最後にやった大ドッジボールが一番ドキドキした競技です。人が逃げる方へと一緒に必死に逃げ回りましたが、結構早くにアウトになってしまいました。でも外野から残っていて頑張っている人を友達と見守るのも面白かったです。

大会の後は集合写真と撮ったり、後片付けをしたり、アイスを食べたりしました。白組は負けてしましたが、新しい人に出会えたり体を動かしたりすることができて、今年の球技大会はとても楽しかったです。

悔しかった球技大会

中等部三年一組　永井　蓮

今日、補習校で球技大会をしました。球技大会で色々なスポーツをしました。最初にバスケをやってアンドレイのチームとやりました。アンドレイのチームは強そうだったから僕は前半と後半やることにしました。十人いたけど一人帰らないといけなかったので九人でした。バスケでは五人ずつ必要だったので二回出ました。十人で結構せまい中でやらないといけなかったので、いつもよりは難しかったです。その上に、アンドレイのチームからダブルされていたのでバスケを入れるのが難しかったです。前半は六点入れて後半は二点入れたので八点しか入らなかったです。最後には負けました。

そのあとはバレーボールでした。僕はバレーをやったことがないのでルールを知りませんでした。チームにもバレーをやっている人はいなかったので相手に負けました。ゆうとのお兄さんはチームで、バレーをやっていたのでボロ負けしました。負けたけど、楽しくて疲れました。

次はドッジボールでした。僕はドッジボールが上手くないので勝てないと思ってました。結局三対ゼロで負けました。一回も勝てなくて残念でした。負けたけど、全部楽しかったのでよかったです。そのあとアロンと一緒にアンドレイのドッジボールの試合とゆうとのバスケの試合を見て楽しかったです。最後のドッジボールも大人数でできてよかったです。

球技大会の後、悔しい気持ちと疲れがあったけど、友達と一緒にできて面白かったです。



頼りにされること

高等部一年一組　福島　圭人

高等部になって初めての球技大会が五月二十日に行われた。昨年同様に、ぼくは学校のバレーボールチームのレギュラーシーズンが終わり、トーナメント戦が始まるタイミングだったので、ぎりぎりまで球技大会に参加できるかどうかわからなかった。なぜならレギュラーシーズンの結果によるので、直前にならないと対戦相手、場所、時間が決定しないのだった。

そんな参加未定の状況のまま、球技大会の一週間前にチームの顔合わせがあった。ほとんど「初めまして」の人たちとのチームだった。誰がどの種目が得意かとか、スポーツの経験などを話し合った。ぼくはもちろん「バレーボールなら任せて」と言うと、「頼りにしてます」と中等部の人から言われた。ぼくは普段あまりほめられるような言葉を言われたことがないので、自分が頼りにされる、期待してもらえるということをとても嬉しく感じた。きっと心の底から「頼りにしている」という意味で言ったのではないだろうけど、ぼくにとってその言葉は嬉しさがじわじわとこみ上げてくるものだった。なんだか顔がにやけてしまった。

同時に自分は先輩なのだなと思った。アメリカでは日本のような厳しい上下関係というものはないように思うし、先輩後輩という意識もほとんどもっていないと思う。でも中高等部の活動では、こうした時に先輩後輩というものを感じることができる。だからといって、先輩が偉いというわけでもないけれど、先輩としてみてもらえること、それにふさわしい行動をしなければいけないなと思わされるのである。

気になるぼくの学校の学校バレーボールチームの試合は、僕たちの試合だけ奇跡的に球技大会の前日に行われることになり、無事に球技大会に参加することができた。あいにくのお天気だったけれど、チームメイトと力を合わせて、ぼくたちは二位になった。頼りにされるほどの活躍ができたかどうかはわからないが、良い結果が残せてよかったなと思った今年の球技大会だった。



球技大会

高等部一年一組　新木　太一修



今年の球技大会は、まさに波乱の連続で、予想だにしない出来事が次々と起こりました。まずはサッカーとキックベースが雨で中止になった瞬間、私たちは皆驚きと失望で顔を曇らせました。雨の中でのボロボロプレーに備えていた私たちにとっては、天の都合には逆らえず、ガッカリの連続となりました。

しかし、ここで私は高校一年生としての責任感を持ち、下級生たちが思い出に残る球技大会を楽しめるように尽力しました。彼らは新たな環境での初めての経験に戸惑っている様子でした。そこで私は、チームの結束を高めるために奮闘しました。普段の私とは異なる一面を見せながら、下級生たちを笑わせることに全力を注ぎました。私は大きな声で応援し、励ましの言葉をかけることで下級生たちの自信を引き出そうと努めたつもりです。最初は緊張で静まり返っていたチームも、次第に笑いと活気にあふれる雰囲気に包まれるように見えました。私たちは個々の力を最大限に発揮するだけでなく、お互いを助け合い、全員が輝けるチームプレーを目指しました。特にドッジボールでは、笑いと驚きの連続でした。三競技の中で一番体を動かすスポーツとして、私たちは思い切り体を張り、ボールをかわそうと必死になりました。股を大きく開いてジャンプする姿や、ボールをよけるために奇抜な動きをする光景は、まさに笑いの渦でした。私たちは汗だくになりながらも、楽しさと笑いに溢れたプレーを続けました。

最後は、私たちはチームとしては全敗で、ボロ負けという結果に終わりました。正直に言えば、時には笑ってしまうほどの大敗でしたが、私たちの目標は勝利だけではありませんでした。球技大会の終わりには、下級生たちの顔に笑顔が広がっているのを見ることができました。それが私にとっての一番のハイライトでした。私たち高校生たちの努力が報われ、下級生たちが楽しんでいたことが明確に伝わってきたのです。

試合が終わって、私はクラスメートたちと一緒にアイスを食べました。汗がボトボトとアイスに落ちていきながら、球技大会の作文をなに書けば良いかわからなくて、大変だなぁという話をしながら、みんな笑顔でアイスを楽しみました。口の中に広がる冷たさと甘さは、一日の疲れを癒してくれるようでした。

球技大会

高等部二年一組　押川　正太郎

私はスポーツが決して得意ではない。正直に言うと苦手で、嫌いだ。それでも球技大会は嫌いではない。それはおそらく球技大会が単純な「スポーツ」の大会ではないからだ。補習校で数少ない学年を超えた行事であるし、一年で初めての補習校のイベントだ。スポーツが嫌いな私も、毎年の球技大会は楽しみだった。

今年は特別に楽しみだった。最高学年の球技大会だし、おまけに今年からキックボールという新しい競技を取り入れる予定だった。楽しみでない訳がない。楽しみ・だった。当日は雨であった。信じられない。雨。雨のせいでキックボールどころか、サッカーまでできなくなってしまった。悲劇としか言いようがない。

残念であったがそれでも球技大会の魅力は消えなかった。ドッジボールで始まった私達Eチームの戦いは、ドッジボールの惨敗で一時戦意は低下した。それでもバレーボールは惨敗。そしてバスケでは僅か二点差のリードを守り抜き、勝利。なかなか盛り上がることができたのではないかと思う。

私は元来人見知りだ。球技大会は楽しみであると同時に、怖い行事でもあった。学年を超えたチームの中で私は上手く話せていただろうか。最上級生として気を配れていただろうか。二つの問いの答えはおそらく「ノー」。それでも球技大会は楽しかった。チームと一緒に運動をするのは面白かったし、勝てた時は嬉しく、負けた時は悔しかった。チームの皆も少しでも同じ様に感じてくれたらいいと思う。Eチームのチームメイトの皆、一日ありがとう。



球技大会

高等部二年一組　ロドリッツ　亜門

球技大会は何年も同じ球技をやっていました、そのためやる球技を少し変えたくなりました。球技大会の球技は、サッカー、バスケットボール、ドッジボール、バレーボールと、大ドッジボールをやります。でもドッジボールを二回もやるのをやめて違う球技をやろう、と決めました。何週間か、クラスメートや生徒会と相談して、キックベースをやることに決めました。キックベースをやると、もっと外に出たまま参加できますし、ボールを投げる球技と、蹴る球技が同じ量になります。球技大会のアレンジをしていたハウエル先生から許可をとって、キックベース決定になりました。

球技大会一週間前に高二と高一で練習をして、みんなノリノリのまま、球技大会の日が来ました。外の球技の問題は、雨が降るとできなくなります。球技大会の日が雨になってしまって少しがっかりでしたが、生徒会長のテンションが低かったら誰も楽しく遊べないので僕はテンションを上げて球技大会をはじめました。僕の司会は自分では、よくできたと思いました。僕は頭の怪我で、見学だけをすることにしました。これだとちゃんと僕も楽しめるかな、と心配しながらはじめの球技を見ていました。見ている間思いつきました、

「僕がたくさん応援して、みんなのエネルギーを上げよう！」

僕はこの作戦で球技大会を自分でも楽しめて、みんなにも楽しませながら、球技大会を過ごしました。最後の球技になったところで僕はもう声が枯れてしまいました。最後の大ドッジボールの時には、ポイントを数えて、

「頑張れ～」

と、応援をして、大ドッジボールが終わり、どのチームが勝ったかを発表をする時間が来ました。みんなの前に立ってアナウンスをしたら、勝った三つのチームの盛り上がりがパワフルで印象に残りました。閉会式が終わって、写真をとるのが一番難しかったです。



中等部から高等部のみんなが全体写真を撮る場所に移るためにアナウンスをするのがすごく疲れました。クラスのみんなが集まって、写真をとる前に

「はい、チーズ」

を言うのが何気に楽しかったです。

全体写真の後はクラス写真で僕は球技大会が始まってから初めて少しリラックス出来ました。クラス写真の後は片付けで、

「みんなが片付けると早く終わる」

と、気づきました。最後に保護者会からのアイスポップがあってすごく美味しく感じました。今年の球技大会は参加できなかったけれど、応援をするだけでも、楽しく過ごせて良かったです。















